



プランターで 野菜作りを始めてみよう!



ほうれん草

① 栽培のポイント

- ◆発芽適温の15~20°Cよりも低温・高温だと発芽率が悪くなるので、低温時期はトンネルや不織布をかけて保温しておけば、発芽率の低下を防げる。また、高温時期は種まきしない方がよい。

② 土づくり

- ◆プランターの底に鉢底石を敷き詰めて、スーパー培養土を入れる。(ほうれん草は酸性土壤で栽培すると生育障害が高確率で発生するので、土づくりの際は苦土セルカを施して調整する)

③ 種まきのポイント

- ◆深さ1cm程度のまき溝を付け、1~2cm間隔で種を条まきし、1cmほど土を被せて軽く固める。(種まきをする際、まき溝の深さ・覆土の厚さがなるべく均一になるようにすることで、発芽が揃い、順調な生育・管理の手間削減・品質向上に繋がる)

④ 間引ま

- ◆株間10~15cmほどに調整する。

⑤ 収穫

- ◆種を植えてから収穫まで30~50日程度かかる。草丈が25cm程度になったら収穫の目安。

⑥ 注意点

- ◆熱や風により、土が乾燥しやすくなるため、プランターをエアコンの室外機の上や周りに置くのは避ける。
- ◆鳥対策のため、プランターにネットをかぶせておく。
- ◆プランターのサイズは地上部分の草丈と同程度の深さのプランターが良い。

⑦ 病害虫防除

- ◆ベと病、炭疽病、萎凋病にかかりやすい。降雨や水はけの悪さによる多湿、土壤中に生息する病原菌が原因となるものがほとんどである。排水性・風通しを良くし、土壤消毒・農薬散布などで対策する。
- ◆アブラムシが発生しやすく、大量に発生するとウイルス病の原因になるので、防虫ネットなどで侵入防止をする。雑草・枯葉は速やかに除去するなど対策する。

⑧ 用土リサイクル方法

- ①土をふるい等にかけ根、茎、石、ごみなどを取り除く。
- ②黒いポリ袋に土を入れ、お湯を入れ泥団子程度の硬さにする。
- ③ポリ袋の空気を抜き、口を閉じる。
- ④2~3日日当たりの良い場所で日干しをして、殺菌・消毒する。
- ⑤土を乾かして、土と培養土を7:3の割合で混ぜる。

加古川市では不要になった園芸土等は家庭ごみとして処分することができないので、リサイクルしない場合は園芸土等の取扱い業者に相談する。